

看護基礎教育と臨床の人事交流による教育連携
—臨床実践力・教育力を生かした取り組み—

○眞鍋 えみ子¹、岡山 寧子¹、笹川 寿美¹、倉ヶ市 絵美佳²

1 京都府立医科大学医学部看護学科、2 京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター

看護系大学には、看護サービスの質の向上に向けた研究と国民が求める看護サービスを提供できる人材の育成が求められており、その課題のひとつは、学士課程卒業生の看護実践能力の向上と基礎教育と臨床との乖離を埋めるための基礎看護教育の充実である。

平成 21 年度から、本学では隣接する附属病院との連携のもとに「循環型教育システムによる看護師育成プラン（文部科学省大学改革推進事業）」に取り組んでいる。両組織の連携の要である看護実践キャリア開発センターを中心に、学士課程 4 年生を包含した一人前看護師や教育インストラクター育成の教育プログラムの開発、生涯にわたるキャリア支援の体制作り、両組織の積極的な交流に取り組み、基礎教育と卒後教育をリンクさせた看護実践能力の継続教育システムの構築を目指している。本取組において、両組織の教育連携は相互の臨床実践力・教育研究力を生かした教育支援（看護部から看護学科への授業支援）と研修支援（看護学科から看護部への研修支援）から構成されている。

本交流集会では、まず、本学における教育連携の概要を紹介する。次に、平成 23 年度に実施した教育インストラクター育成プログラムを取り上げ、教育連携による効果について臨床と基礎教育の視点から考える。そして、看護基礎教育と臨床とのより有機的な教育連携について、皆様と意見交換を行いたい。